



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：原則主義派の動き

(17日付現地各紙)

17日付現地各紙によると、16日に「原則主義派」の中の伝統保守派ウラマーの政治団体である「闘う聖職者協会」と「コム神学校教師協会」が「原則主義」を定義する内容（原則主義派マニフェスト）の共同声明を発表した（背景に関しては後述の「中東調査会補足」をご参照願います）。

1. 「闘う聖職者協会」および「コム神学校教師協会」主催の第2回原則主義派会合が開催されてから38日が経過した1月16日に、「闘う聖職者協会」のマフダヴィー・キャニー事務局長と「コム神学校教師協会」のモハンマド・ヤズディー事務局長の署名入りの声明が発出された。
2. 同声明に関し、アフマド・サーレク「闘う聖職者協会」スポークスマンは、「ハーメネイ最高指導者の要請により、両協会の共同委員会による16回の会合が開催された後、「原則主義派マニフェスト」が統括され、4つの原則と12の指標が編纂された」と述べた。
3. 共同声明の概要
 - (1) 原則主義の定義は、「原則」および「指標」を含んでいる。
 - (2) 「原則」とは、あらゆる分野および状況においても変わることのない普遍の概念であり、原則主義の本質かつ基本と見なされる。この原則とは、(a) イスラム教、(b) イスラム共和国（憲法）、(c) イマーム（故ホメイニー師）、(d) 絶対的なヴェラーヤテ・ファギーフ（イスラム法学者の統治）である。
 - (3) 「指標」とは、特に、現在、原則主義が活動する際の優先事項を示すものであり、(a) イスラムの価値の守護、(b) イスラム革命の原則への忠誠、(c) ヴェラーヤテ・ファギーフの実践および最高指導者の見解を最終的な決定と理解すること、(d) ウラマーおよびマルジャエ・タグリド（シーア派イスラム法学者最高権威）、(e) 質素な生活および豪華な生活の回避、特に貧困層への配慮、(f) 合法的な自由および宗教的民主主義への信念、(g) 公正主義および腐敗との闘い、(h) 国家のあらゆる発展への協調および信念、(i) イスラムの基準、知性、法律、計画、善策および国民に対する思いやり、(j) 最高指導者の措置の下で三権が協力・協調する義務および信念、(k) 敵を知ること、高慢者との闘い、独立への希求、敵たちおよび騒擾者たちに対する明確な態度、(l) イスラム共同体の団結の実現のための努力、である。
 - (4) 「闘う聖職者協会」および「コム神学校教師協会」は、これらの原則と指標に基づき、イスラム共同体における「統一した声」の実現のための下地を作り、偉大なイラン国民に対し悪意を持つ者たちを失望させるべく努力する。

中東調査会補足

原則主義派（保守派）

「改革派」に対抗し、イスラム革命の原則に忠実であることを旨とするグループ。2003年2月の第2期地方評議会選挙で台頭。2004年2月の第7期国会選挙では、多数の「改革派」候補者の立候補が認められない中、「原則主義派」が圧勝した。2008年3月の第8期国会選挙では、多数の「改革派」候補者の立候補が認められない中、「原則主義派」が勝利した。

闘う聖職者協会（JRM）

1977年にパフラヴィー王制打倒を目指すウラマーにより結成。亡命中であった故ホメイニー前最高指導者の演説をテープに録音するなどしてイランに運び、大学・モスク・バーザールなどで人々に聞かせ、様々な集会やデモを組織し、イラン革命（1979）を成功に導いた。

ハーメネイー現最高指導者やラフサンジャーニー現公益評議会議長兼専門家会議議長（元大統領）も結成メンバーである。事務局長はモハンマド・レザー・マフダヴィー・キャニー。

原則主義派（保守派）政権内の対立

2009年6月の第10期大統領選挙以降、「改革派」の動きが徹底して封じ込められる一方、政権を担う「原則主義派（保守派）」内で「大統領支持勢力」と「反大統領勢力」の対立がより顕在化してきている。大統領の側近、マシャーイー大統領府長官兼大統領顧問の人事問題などをめぐり、大統領支持派 vs. 国会（ラーリージャーニー国会議長）が対立しているのだ。

これに関連して、アフマディーネジャード大統領は2010年12月にマヌーチェフル・モッタキー外務大臣やメフルダード・バズルパーシュ副大統領兼国家青年庁長官を解任し、2011年1月には大統領顧問のうち14人を解任した（大統領には補佐役の12人の副大統領に加え、外交や経済政策などを担当する顧問が約20人いる）。

こうした状況の中、ハーメネイー最高指導者は、原則主義派（保守派）内の結束を固めるため、特に、ウラマー（特にコムウラマー）との連携を深めるため、試行錯誤しながら様々な動いているようだ。2010年10月には、宗教・学術都市コムを訪問し長期滞在（9日間）した。同年11月には、イランの有識者（大学教授、神学校教授、科学者、国会議員、政府関係者など14人）との間で4時間にわたり会合を開き、「イスラムとイラン人の発展モデル」について協議したのである。「原則主義派マニフェスト」の発出も、「原則主義派」政権内の対立に関連する一連の動きの一環と言えよう。

原則主義派（保守派）内の対立に関しては、下記、中東調査会『かわら版』もご参照下さい。

- ・『かわら版』（2010/10/28）No. 174「イラン：ハーメネイー最高指導者のコム訪問」
- ・『かわら版』（2010/12/9）No. 189「イラン：ハーメネイー最高指導者の発言」
- ・『かわら版』（2010/12/16）No. 192「イラン：モッタキー外相の解任」